

備前・備中 国境標石

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾816-11付近	
		<p> 備前・備中 国境標石 </p> <p> 戦国時代から江戸時代に約100年間にわたって続いた領争の最終解決を物語る、貴重な歴史遺産です。新旧時代による国力増強を図ろうとする備前藩府と、その支配下の岡山藩や備前藩の領争に、瀬戸藩などの諸藩の援助拡大を図ろうとする備前・備中の村々の抗争が複雑に絡み合い、領争論争にまで発展しました。 </p> <p> 幕府の裁定の決定を経て、文化13年(1816)、最終的に幕府に参り、それに基づいて翌4年(1821)、豊後守備の長が瀬戸藩から、再び備前・備中領地内に入る前に、石製の10cmの境界石が設置されました。これはそのうちの扉から4番目の標石です。3番目の標石が岡山市南区妹尾に設置されましたが、現在は公園の下に埋められており、見る事ができません。 </p> <p> <small>岡山市立歴史資料館 備前・備中 国境標石</small> <small>岡山市立歴史資料館 備前・備中 国境標石</small> </p>

四ツ樋

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾101付近	
		<p>岡山藩によって行われた岡備前川の開削に伴い、安永6年（1787）年に造られた木村土木跡です。</p> <p>岡備前川に水を引く方法として、高尾地区で行われた方法の一つが、妹尾村の「四ツ樋」から取水して高尾川を経由させ、高尾川門から伏見地区に向けて流すこと（「舟式取水」）。この「四ツ樋」は、高尾地区の灌漑で、当時の高尾川に流って高尾川門から高尾川に向けて流すこと。また「四ツ樋」の取水方法として、高尾川門に「高尾川門」を設けることとし、高尾川門の取水方法を高尾川門の取水方法として、高尾川門から高尾川門に取水する方法で、これが「四ツ樋」です。</p> <p>近年、安永と高尾川門は現代の灌漑に取替され、現在高尾川門の跡を留めているのが高尾川門跡です。</p> <p>岡備前川 高尾川門跡 岡備前川</p>

跡不見観音寺

平面図		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾2685付近	

児島湾漁撈回漕図

平面図		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾897-1付近	

旗本・妹尾戸川家陣屋跡

平面図		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾1761付近	 <p>旗本・妹尾戸川家陣屋跡</p> <p>江戸時代の旗本邸宅跡・妹尾戸川家の跡地を調査し、ここに陣屋跡を発見した。旗本邸宅跡は江戸時代中期に築かれたと見られる。調査範囲内には、1761番地跡に旗本邸宅跡・妹尾戸川家の跡地が確認された。そのほか、調査範囲内には、大橋医院跡も確認された。</p> <p>旗本の邸宅（陣屋）は江戸時代中期、旗本邸宅の邸宅として構築された。旗本邸宅跡の跡地には、江戸時代の邸宅に属する跡地が確認された。</p> <p>一方、調査範囲内には、旗本邸宅跡の跡地が確認された。調査範囲内には、旗本邸宅跡の跡地が確認された。旗本邸宅跡の跡地には、江戸時代の邸宅に属する跡地が確認された。</p>
 <p>凡例  : 設置位置</p>		

福田地域センター（旧福田村役場）跡

平面図		表示内容
所在地	岡山市南区古新田1186	
<p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		<p>福田地域センター（旧福田村役場）跡</p> <p>福田村役場は、昭和2年（1922）に建築され、昭和46年（1971）5月、岡山市との合併により、岡山市庁となりました。平成21年（2009）、岡山県土庫所移付により、名称を福田地域センターと変更し、市域広域内福祉センターを中心とした福祉サービスを提供してきました。</p> <p>庁舎建設後、約40年を経過し、老朽化が著しくなったことから、安全・安心な福祉サービスを提供するため、平成30（2018）年5月に福田の民間敷地内に新庁舎建設し、移転しました。</p> <p>同様に、福田村役場跡地に現存された、近代材料である舞臺橋（橋本町）の瓦葺き瓦葺した建物を「歴史ある空間」が活かされています。福田地域の歴史と共に行政の中心地として、今後も地域の中心に誇り輝かれています。</p>

矢吹学舎

平面図		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾1486付近	
		<p>岡山歴史散歩 ー 1486の歴史と今ー</p> <h2>矢吹学舎</h2> <p>「矢吹学舎」は地域の歴史・文化（徳田・山田）に基づいた学舎（1970）に於けるわが国教育の発展の場を、全国的に見ても古い方から6割ほどという記録的な歴史があります。生徒の年齢は8～9歳から15～16歳くらいで、生徒数は多い時で男児130人、女児110人という記録が残っています。教育の内容は、算数、算術を中心としながら、十十・十二文や「交天学」の学習、仕来物・日本文・百人一首の書道など多岐に渡っていました。</p> <p>矢吹学舎は、開設以来三百余年の間に矢吹家の妹尾地区内での私塾に在り、その呼び名が「今寺学舎」、「正奇学舎」、「紅田学舎」、「白沢学舎」と変化していきました。</p> <p>明治5年に学制が作られ小学校制が始まると、これに引継がれて30余年経たず閉校しましたが、新制小学校の設置には矢吹家の歴史をたどったものも採用され、今なおその精神を継いでいます。</p> <p>資料提供：岡山・矢吹学舎（2010）</p>

歴史と文化のまち 妹尾(妹尾地区総合案内板)

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区東畦 JR妹尾駅口一タリ一付近	
		

戸川家墓所

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾1757付近	
		

金毘羅往来と道標

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾876付近	
		 <p>岡山県岡山市 一まんの歴史を伝える</p> <p>金毘羅往来と道標</p> <p>岡山の金毘羅往来は岡山山下から下津井浜までの約35kmの参詣道ですが、江戸時代中期以降は尾山・尾山加にある「金毘羅大権現」との御参りお参りに行われたことから、由緒に詳しい下津井や白浜が使われることもありました。</p> <p>浜尾地区内の代表的なルートは、東の犬塚から浜尾の町に入り戸川権屋、盛隆寺、御前神社の前を通過して西へ進み真島・早島に至ります。早島では北から南下してまたもう一本の金毘羅往来を合流してさらに南下し、浜尾前に続くものでしたが、このよりな往来は時代により新しい道標ができたがルートが変化したり認識ができたりました。</p> <p>往來の通過路には道標や番所燈籠が建てられ、通行の案内の道しるべになっていました。 <small>〔道標に刻されている文字〕</small> <small>〔前面〕右はやくしやくし 左はのうおが山道</small> <small>〔背面〕なはやくしやくし 右はのうおが山道</small> <small>〔側面〕左はやくしやくし 右はやくしやくし</small></p> <p>この道標は道路拡張工事のため、元あった所から少し動かされ、方向がずれています。</p> <p><small>〔資料元〕岡山県立歴史博物館 刊行</small></p>



題目石(宝塔)

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾89付近	
		 <p>岡山歴史散歩 — 土佐の歴史から —</p> <p>EXPLANATION</p> <h2>題目石 (宝塔)</h2> <p>鎌倉時代末期に、天童次郎定(妙興)が山陽地方に布教した日蓮法華は、その後17世紀中頃には、岡山に題目石を築いた本戸目表にも広げられ、その広がりは一変するまで大きくなりました。</p> <p>妹尾の町をのいたところに日蓮法華の題目「南無妙法蓮華經」の七文字を刻んだ題目石が多く建てられています。中には大徳大僧の筆跡を刻した「龍興石」も見られます。</p> <p>題目石が建てられた目的や意味は、亡者供養のためのものや、五穀豊穡、町内の安全を守るものなどさまざまです。その幅広い信仰心は現代にも受け継がれており、今でも題目石の前で参拝が執り行なわれているところがあります。</p> <p>【制作団体】 岡南 - 岡山文化財協会 岡山県</p>

汗入の三つ井戸

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区妹尾964-3付近	
		

榎木網漁紀功碑

平面図		表示内容
住所	岡山県岡山市南区阿津1691付近	
地番(公図)	岡山市南区阿津字札場脇1692-1	
		

甲浦地区

設置位置		表示内容
所在地	南区北浦716付近	
 <p>凡例 ✕ :設置位置</p>		<p>岡山歴史散歩 ーまちの歴史を知るー</p> <p>甲浦地区</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">  <p>児島湾大橋</p> <p>昭和34年(1959)に児島湾跨道橋が完成して以降、岡山市と工野市を結ぶ短絡道路として、本場路上の上を走る跨道橋防道路が利用されてきました。しかし、同道路は大型車両の通行が禁止されていたため、児島への新たな架橋が計画され、昭和59年(1983)に北浦大橋が完成しました。当橋は下部を船が通航できるよう、橋桁の高さが約30mとなっています。</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p>備前石工</p> <p>江戸時代後期、笠置と備前には優れた技術を持った石工集団があり、「備前石工」と呼ばれていました。寛永3年(1626)の宮浦には、約600人もの石工がいたという記録が残っています。石工たちは日本国内津々浦々への出張を許され、現在も残る数々の藩校土木築造物の工事にあたりました。中でも宮浦出身の井上三郎(前代)は笠置の五段筋の石工事業を担当し、専ら土建設に尽力しました。奥子の三郎(二代)も御膳や水戸等で石工として活躍し、明治12年(1879)には当地の尾崎神社(御飯屋・通所)の鳥居を奉納しました。</p> </div> </div> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">  <p>西行法師が詠んだ句</p> <p>平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した歌人、西行法師は歌を詠みながら放浪の旅を続ける中、当地にも訪れたとされています。再訪時に北浦村で詠まれたとされる歌には、八幡様に植えられていた松の木を見て自身も年を重ねたことを実感する様子や、児島湾で漁師たちが一斉にアミを捕っていた様子が描写されています。</p> </div> <div style="flex: 1;">  <p>羽柴秀吉の誓詞</p> <p>備前笠置には、羽柴秀吉から源の年寄(村役人)に於て書簡が保管されていました。これは天正10年(1582)5月3日付で、備前水攻めにおいて郡から送られた糧の乳を述べるとともに、さらに200束の糧を早く送るよう命じたもので、これらの糧は高松城の包囲のため使われたと考えられています。本書は昭和40年(1965)に岡山市の指定文化財になりました。</p> </div> </div>

郡港

設置位置		表示内容
所在地	南区郡1057-1	
		 <p>郡港</p> <p>当地の地名は、古来、地区内に郡港が置かれていたこと由来しています。郡港も内海航路の要港として繁栄しました。室町時代には、当港を船越場とする郡の郡や米を積んで単天寺前百津北屋に入国した記録が残っています。</p> <p>江戸時代に編纂された『高瀬論政録』の『郡港』項には、大工や鍛冶、漁業を営む人が多いこと、また京都で有名だった「光風話百」が製造されていたことが記されています。</p> <p>当地区の守護として、郡港の南にある築山に稲社宮が鎮座し、稲光島郡内の11社の祭神が祀られています。秋祭りにはここで江戸時代中期・江戸時代末期・明治初年に造られた3基のだんじりが運行されています。これらはいずれも車台に面取り方柱を立て、漆喰造り屋根が組まれた構造と洗練された装飾を持ちます。昭和40年(1965)には、『郡のだんじり御幸録だんじり大用覧』として本市の重要有形民俗文化財に指定されました。</p>

北浦港

設置位置		表示内容
所在地	南区北浦716付近	
		 <p>河山歴史散歩 ーまわりの歴史を知るー</p> <h2>北浦港</h2> <p>江戸時代、足利藩は岡山藩から「船子浦」に指定されました。船子浦とは海路を行く参勤交代の諸大名の通船へ水や薪を供給するなどの役割を課された所を指します。これにより、北浦村は地元の漁業権を得た内海航路と漁業の拠点として栄えました。享保6年（1721）頃には船舶数168艘、家数198軒、人口1227人、田畑15町7段（約18.5ha）あったとされています。港周辺には魚屋や船客の宿泊所が多くあったと高い、当地域内には現在も数軒の船が残っています。</p> <p>明治時代には、村校として地域の子どもたちの教育機関として役割を担っていた「足利村」がありました。現在の北浦公会堂には、足利学校の跡地であり、岡山藩全体の教育推進に尽力した高島山による書を記した木製板が残されています。</p>

宮浦港

設置位置		表示内容
所在地	南区宮浦834	
		<p>宮浦という地名は、沖の瀬川(神社)に向かい向う浦であったことに由来するようです。高橋宮は初代天皇とされる神武天皇が率征の際、当地に行宮を創設したことに始まると言い伝えられています。この頃の高橋は周長が11町(約1.2km)ほどの小さな島で、竹藪とも呼ばれていました。</p> <p>延暦3年(772)には和歌として西社の神が奉告されるなど、古来より崇敬、詣り、奉仕の神事が多く、荘園や社屋などの新築等についても物置がなされていました。</p> <p>また、本地区の特徴として、多くの家々に朝や門が付いているのが挙げられます。これは、戦国時代に瀬川内海防を履行していた城守が屋からの侵襲を防ぐための構造が残ったものとされています。</p>

飽浦港

設置位置		表示内容
所在地	南区飽浦413-1	
		

小串東港

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区小串2431	
		

古新田

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区古新田1186	
 <p>凡例  : 設置位置</p>		

旧御野郡南部の干拓地

設置位置		表示内容
所在地	岡山県岡山市南区芳泉3丁目2-2	 <p>岡山歴史散歩 一歩の歴史を知る</p> <p>旧御野郡南部の干拓地</p> <p>芳泉学区周辺の干拓地は、旭川右岸側から干拓された種福町、後々瀬川左岸側から干拓された芳泉町、昭和10年代の児島湾干拓第3・5区（南支）からなります。</p> <p>昭和2年(1927)発行の報道雑誌によれば、福徳村は江戸時代前半の思川河川の治水工事で排出された土砂が、河口部から西方向に堆積してできた干潟を利用して干拓されたそうです。</p> <p>寛永元年(1624)以降、早井村の新田として干拓された早瀬新田に続き、福徳新田、浜田新田、徳富新田、新井新田、徳成新田、徳由新田、藤江新田、新江新田の順に干拓が進められました。地名に「福」「富」などが含まれているのは江戸初期の全国に見られた苗字で、新田開墾の名残とされています。</p> <p>また芳田村は、寛永4年(1627)の渡山新田に始まり、徳富新田、芳徳新田、早瀬新田の順に干拓が進められました。ここ芳泉3丁目の旧町名である当新田は、開拓を指揮した前代今川氏当麻の「当」から名づけられたそうです。</p> <p>1/10</p>
 <p>凡例 ✕ : 設置位置</p>		

興除新田

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区中畦589-1	
		

児島湾干拓1・7区（旧灘崎町）

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区片岡119-1	
 <div data-bbox="313 1212 649 1324" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>凡例</p> <p>✕ : 設置位置</p> </div>		

児島湾干拓2・6区（旧藤田村）

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区藤田508	

凡例
 : 設置位置

児島湾干拓3・5区（旧浦安地区）

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区浦安南町495-5	
 <div data-bbox="304 1193 647 1302" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>凡例</p> <p> : 設置位置</p> </div>		

大水門

設置位置		表示内容
所在地	岡山市南区東畦2-1付近	
 <p>凡例 ❌ : 設置位置</p>		

妹尾川三連樋門

設置位置		表示内容
所在地	南区藤田508付近	